



《うまいもん味わいまつり》

鉢盛おろし

別れと出会い

『春は別れと出会いの季節』とはよく言われる言葉です。

卒園、卒業、転勤、またそれらに伴って引越しをされる方もいらっしゃるでしょう。しかしそうした別れが、一方では新しいステージへの扉となり、新しい出会いへと繋がっていきます。

きっとこの時期、希望や不安等、様々な想いとともに、それぞれと落ち着かない日々を過ごされている方も多いのではないのでしょうか。

とは言え、いつでも、どこでも、誰とでも繋がることのできるSNS全盛の今、『出会い』はともかく『別れ』に対する感覚は、一昔前ほど大袈裟なものではなくなっているような気がします。

案外少し時間が過ぎてから、ランチの時のいつもの場所にあの人がいない。洗濯機を回す回数が減った。なんという日常の些細な変化に気づいたときに寂しさを感じたりするのもかもしれません。

ところで、突然私事で申し訳ありませんが、実は先日めでたく(?)還暦を迎えました。

諸先輩方には「まだまだ」と言われるかもしれませんが、若い頃と比べてこれぐらいの歳になると、どうやら出会いと別れの比率が逆転してくるようです(圧倒的に別れが多い)。

同級生はともかく、お世話になった方の計報がぼつぼつ届いたり、なにより出会いの数が少なくなりました。

このままではいけないながらも、何か新しいことを始めようとする意欲の衰えや、新しい人間関係を構築することに対する煩わしさを感じるのはきつとわたしだけではいいはず。

この意見に深く頷かれた貴方、朗報でございます。

ぜひ、この館報をご覧ください。わたしもうっかりしていましたが、館報では村内の様々な人、モノ、コトを紹介させていただいています。ちよつとそこまで出掛けてみれば、新しい出会いが貴方を待っているかもしれません。

ちなみに今号の表紙の写真は、「うまいもん味わいまつり」の一場面です。「うまいもん」との出会いもまた、人生における確かな幸せと言えるのではないのでしょうか。

人生100年時代。心と体に刺激を与えて、いつまでも元氣滂刺といきたいものです。

H・Y

中学生のみんな集まれ！

「中学生のみんな集まれ！」これは朝日村公民館が呼びかける中学生の居場所づくり事業のキャッチコピーです。この事業は、地域の皆さんのご協力をいただきながら、中学生が放課後に安心して集い、活動できる居場所を公民館につくろうとする取り組みです。今年度は中学生へのニーズ調査や意見交換をもとに内容を検討し、できることから少しずつ形にしてみました。



ケーキ作り



おしゃべりカフェ

学校や家庭とはまた違う環境の中で、気軽に立ち寄り、思

い思いの時間を過ごせる場となることを目指しています。地域の方々のあたたかな支援と交流を大切に活動を進めています。

これまでにおしゃべりカフェや調理実習なども実施しました。おしゃべりカフェでは地域の方とお茶を囲んで交流し、世代を超えたふれあいの時間となりました。調理実習ではバインのアップサイドダウンケーキ作りに挑戦し、協力しながら楽しく調理を行いました。

2月18日(水)は、16時より中央公民館講堂にて1月に続き2回目となる「編み物講座」を開催しました。編み物クラブの皆さんが講師となり一人ひとりに丁寧な指導し、初めて参加した生徒さんはチャーム作りに挑戦。編み図を見ながらひと編みずつ教わり、約40分で作品を完成させました。2回目の参加となる生徒さんはマフラー作りを続

け、1メートルほどまで編み進めるなど上達の早さが光っていました。集中してかぎ針を動かす姿が印象的で、「物を作るのが好き。編み物にハマった」と笑顔で話す様子からも、活動が新たな楽しみや自信につながっていることが感じられました。

今年度の事業は2月で一区切りとなりますが、来年度も継続予定だそうです。中学生が気軽に集い、地域と関わりながら自分らしく過ごせる居場所として、これからどんな活動が生まれていくのでしょうか。今後の広がりが楽しみです。



作成したマフラー



編み物講座

クラブ紹介

● 総合スポーツ倶楽部 ほらふき村

『総合スポーツ倶楽部 ほらふき村』この名前を聞いてピンと来る方は少ないと思います。今を去る事40年余り前、「お夏まつり」の前身とも言える、伝説の「朝日村サマーナイト・フェスティバル」開催の為に設立された由緒正しき倶楽部なのです。数回のフェス開催を経て、その後の活動は、スキー・スケート・テニス・登山と節操なく広がっていき、一時はメンバー数が100人を超えたとの噂もあった程です。（あくまでも噂です）

（平たく言えば麻雀なのです）が「これは今時流行りのフレイル予防となる筈だ…」主催者談）効果の程は定かではありませんが、毎年開かれる1月の競技会を心待ちにしておられる熱烈なメンバーもいて、今年も30名近くの方が参加されました。大会は正規の競技麻雀ルールで行なわれ、皆さん静かな闘志をみなぎらせ決戦に臨んでおられます。参加者にお話を伺ったところ「たかが麻雀、されど麻雀、その時の勝ち負けは人生を投影させるものだよ。」と述べておられました。



大会の様子



ほらふき村民一同

かに卓を囲んでおられるのでしよう。そのうちに私もそちらに伺います。どうかその折新参者にはお手柔らかにお願い致します。（それはそれで楽しみではありますね。↑村民一同）
ほらふき村村長：ムーミンの
副村長：ムーミン
（倶楽部の意向により実名は公表されません。）

● 朝日ヘルスメイト

『朝日ヘルスメイト』正式名称を「朝日村食生活改善推進協議会」といい、朝日村では昭和63年に発足されています。

そもそもの始まりは、昭和34年。当時の厚生省から「栄養及び食生活改善実施地区組織の育成について」という通達がなされたそうで、その後、昭和・平成の時を経て、「地域保健法」の施行に伴い、地区組織の運営は市町村に移譲され現在に至っているとの事です。これは「ヘルスメイト」の活動が、単なる趣味、嗜好のサークルではなく、れっきとした国の健康推進事業の一環であると言う事になります。正直いって、これは知りませんでした。意義深い活動なんです。県内でも各地区のヘルスメイト組織が「具沢山の味噌汁」を奨励したのをきっかけとし、長野県の健康寿命延伸に寄与したとの話も伺いました。いやいや大変おみそれ致しました。

現在のメンバーは27名。主に中央公民館での「親子で作る料理教室」、A・Y・T 朝日村

ニュースにての「日本一野菜を食べる村」のキャッチフレーズのもと「野菜もりもりクッキング」の紹介、また年6回「オレンジランチ」では共食きょうしよくの為の食事提供、他にも手芸や健康体操などなど幅広く活動しておられます。これからも、村民全体の健康維持・増進の為、より一層のご活躍をどうぞ宜しくお願い致します。

会長 野村幸子さん
事務局 宗田桂子さん

（役場住民福祉課）



文化祭での様子



具沢山の味噌汁

熊久保だより

～朝日美術館・民俗資料館発行～

4月3日より

朝日美術館・歴史民俗
資料館再オープン



リニューアルした資料館展示室



当館は改修工事のため休館していましたが、まもなく一年ぶりに開館します。

館内の照明をすべてLED化し、壁やカーペットを新装しました。2階資料館は、これまで以上に観やすく、興味を持って学びの場となるよう工夫い

たしました。ぜひリニューアルした美術館・資料館へご来館ください。

令和8年度

展覧会のご案内

4月3日～5月31日

空気頭 成瀬政博展



展覧会ポスターの作品

成瀬政博さんは松川村在住の画家・イラストレーターで、エッセイストです。『週刊新潮』の表紙絵を1997年から担当し、現在も継続中です。長年手がけた表紙絵のキャリアと実績は確立されましたが、2020年のコロナ禍を機に仕事ではなく自分の表現としての絵を描きたい衝動が一気に

にあふれ出しました。そこで、100号のキャンパスに何事にもとらわれず頭の中を空にして、自分が納得のいくように筆を走らせて創作したのが「空気頭」のシリーズです。自身を中心に据えながら自己を解放するところから生まれ出た作品たちです。『週刊新潮』表紙絵原画もあわせて展示します。



『週刊新潮』1998年

6月13日～7月26日

(会場 展示室)

その先の世界へ
～柳沢健コレクションを
中心に～

当館にはみなさまにご覧いただきたい作品が数多くあります。今回はその中から松本市の画家柳沢健氏のご遺族から寄贈いただきました作品を中心に、それぞれの作品の背景に見えてくるつながりをテーマに展示します。



高山良子・作「これから これからだよ」

6月13日～7月5日

(会場 ふれあいギャラリー)

高山良子詩画集展

『これから これからだよ』

朝日村小野沢の高山良子さんは教員として小学校に勤めていた頃から心に浮かんだ言葉を書き留めてきました。それは自分を励ますための言葉でしたが、あちこちに書きつけてあったものを集めて整理し、自身で挿絵をつけて本にしたところ、読者から励まされたとの反響が大きく、第3版の発行にまで至りました。原画と原文を展示するはじめての個展です。

7月11日～7月26日

(会場 ふれあいギャラリー)

新発見！遺跡展

縄文遺跡の宝庫である朝日村で、新たに縄文遺跡が発見されました。発掘調査は行われていませんが、遺跡と断定できる十分な証拠があります。今回は収集された石器・土器・黒曜石を展示し、新遺跡の概要をご紹介します。



新遺跡で収集した矢じりと黒曜石

8月7日～9月27日

上條俊介コレクション展

上條俊介記念館の役割を担う当館のコレクションは、作品の寄贈や情報提供により年々充実しています。近年新収蔵された作品及び研究成果の報告から上條俊介が生きた時代を想像してみてください。

主に大理石を用いて制作している小林さんは、宮沢賢治の童話『貝の火』に着想を得て、近年は兎をモチーフにした作品を制作しています。磨き上げられた大理石の造形と、詩的なテーマの融合が魅力の小林作品の集大成をご覧ください。



《貝の火》2019年像

10月9日～11月29日
小林 亮介 彫刻展



新収蔵の俊介作《女胸像》

12月11日～3月8日

R8ベストセクション展



《REBORN》 2023年

今回のベストセクション展は改装した展示室のライティングを活かし、作品だけでなく展示空間を楽しんでいただける会場づくりを計画しています。ひと味違った雰囲気の中でご鑑賞ください。

12月28日～1月4日

年末年始休館

2月11日～2月23日

あさひっこ展

令和7年度は休館のため毎年恒例の「あさひっこ展」が開催されずガッカリしていたみなさん、お待たせいたしました。元氣いっぱい・アイデア満載の「あさひっこ」たちの作品がお待ちしています。

ます。どうぞお楽しみに。

報告 美術館視察研修

2月1日、教育委員・社会教育委員・縄文むら協議会委員・朝日美術館友の会会員を対象とした美術館視察研修で軽井沢ニューアートミュージアムを訪れました。6月7日まで開催中の展覧会「つながる・ひろがる(越境・拡張する表現領域)」に出品している朝日村出身の下田ひかりさんが、同館ギャラリーで個展を同時開催している機会に合わせ実施しました。複数の作家が出品しているなか、下田さんの作品は会場の入口から展示されており、展覧会へのアプローチとなる重要な導入部分を託されているのが感じられました。個展会場では同



個展会場での下田ひかりさん

行いただいた下田さんが作品を解説してくださり、参加者の質問に丁寧に答えてくださいました。

研修に先立ち、現代美術の

歴史民俗資料館のお宝拝見 ⑭

「シナ」は何に
使ったのか？

民俗資料を
整理していて
「シナ」と書か
れた茶褐色の



資料館に保管されているシナ

一束の繊維に注目しました。朝日村では多くの方がすぐにピンとくるのですが、実際どのように使われていたのか説明しないと、見た目だけではわからない人が多いのではないかと考えました。

シナノキの樹皮を「シナ」とい、「シナノキ」はアオイ科シナノキ属で北海道から九州まで分布が広がっています。余談として、長野県「信濃(科野)国」の名の由来とも聞きますが、科野はほかにも「科坂」＝険しい峠のことを指したようなので、ここでは考察いたしません。

シナノキの樹皮は縄や編みカ

鑑賞を深めるための事前学習会も行われ、昨今における世界のアートシーンにも関心を寄せる機会となりました。

ゴ、蓑糸にして織物にするなど、強度があり水にも強い繊維が多岐にわたり利用されてきました。利用方法は、一般的には樹皮を剥いで水に晒して縄を編んだり、籠を編んだりする方法です。

調べていくと奥会津では「ネジリツカワ」と呼ばれる技法で、シナノキ(福島県では「モワダ」と呼ばれる)の生の皮を剥ぎ洗い、水に晒したものより強靱な荷縄(にな)や馬のロープを作り出します。この剥いだ生のシナノキの皮を「しほり皮」と呼びます。麻やカラムシ(苧麻)は高価であったため、シナノキは重宝されました。

当館の一束の「シナ」はおそらく水に晒したものでしょう。薄く柔らかくなめらかです。この「シナ」から昔の朝日の人々は何をつくり出したのでしょうか。4月から常設展示となっているので、考察してみてください。



サラダの里通信

2026年(R8年)スケート場まつり

1月25日(日)、冬の澄んだ空気の中、今年も貴重な天然リンクとして村内に知られている朝日村スケート場で、恒例の『スケート場まつり』が開催されました。

一周約200メートルのコースを使用して、スケートレースや氷上綱引き、氷上ユニホックといった氷上の競技3種目が行われ、保育園児から小学生などの家族連れを中心とした参加者が楽しめました。

スケートレースでは、保育園児は100メートルを、小学生以上は200メートルでのタイムを競い合いました。氷の上で踏ん張る氷上綱引きは、大人も子供も滑って爆笑の連続でした。氷上ユニホックでは一生懸命ボールを追いかけてながら三角コーンをスラロームし、スピード感溢れるプレーに歓声が上がりました。誰もが参加できるユニークな氷上競技が行われ、転んでも笑顔で立ち上がる子供たちの姿が会場を穏やかな空気に包み込みました。寒さを忘れて村の絆が深まる素敵な冬の1日となりました。



ガンズくんも一緒に

朝日村スケート場。そこは朝日村の伝統スポーツとも言えるスケートに多くの村民が世代を超えて親しめる場所であり、また子供達にとっては楽しみながらかけがえのない経験にも繋がっていく貴重な場所であるようです。そのような場所を守っていく事も、私たちの大切な役割ではないでしょうか。



爆笑!!氷上綱引き

朝日小学校スキー教室

1月27日(火)に朝日小学校の1・3・5年生、2月4日(水)には2・4・6年生を対象としたスキー教室が、あさひプライムスキー場にて行われました。

冬の自然の中、雪に親しみながら楽しく滑るこの活動は、学年を越えた交流も生まれ、子どもたちにとって貴重な体験の時間となりました。

教室では、児童一人ひとりの技量に応じて班を編成し、インストラクターの先生の指導のもと練習に取り組みました。スキーの経験が浅い児童は、用具の扱い方や転倒時の起き上がり方、止まり方などの基礎を丁寧に学びました。一方、経験のある児童は、スピードのコントロールやターンの質を高める練習を重ね、上級班では斜面にに応じた滑り方にも挑戦していました。

インストラクターの先生の分かりやすい声かけと励ましにより、子どもたちは少しずつ自信をつけ、練習を重ねるごとに表情がいきいきとしてきました。仲間同士で声を掛け合い、できるようになったことを喜び合う姿も見られ、技術の向上だけでなく、協力する気持ちも育まれた一日となりました。



インストラクターの先生と楽しく練習



挑戦する気持ちと達成感

朝日村の自然や施設を活かした体験活動を通して、子どもたちの学びがさらに深まったことでしょう。



あさひ保育園 節分豆まき

2月3日(火)、あさひ保育園では、節分にちなんで豆まきを行いました。

鬼が来る前にクラスで「どうやって鬼をやっつけようか」と作戦会議を開き、「声を出していっせいに豆を投げよう」「新聞紙の武器を持って前に出よう」と子どもたちからさまざまなアイデアが出ました。鬼が教室の外から登場すると、最初は驚いて先生の後ろに隠れる姿も見られましたが、みんなで決めた作戦を思い出し、自分たちで作った武器を手に、「鬼は外! 福は内!」と元氣な声を響かせて立ち向かう姿は、とても頼もしく感じられました。友だちと力を合わせて鬼を追い払うことができ、達成感にあふれた表情が見られました。

日本の伝統行事に親しみながら、友だちと協力する楽しさや勇気を感じる行事となりました。



鬼は外!



鬼とハイタッチ

第46回塩尻・朝日ジュニアスケート競技大会

2月7日(土)に岡谷市はやまびこ国際スケートセンターにおいて第46回塩尻市・朝日村ジュニアスケート競技大会が開催されました。当日は朝日小学校、あさひ保育園の園児、児童13名がエントリーしました。

寒波により一日中吹雪の悪天候の中でしたが、朝日村スケート場で練習を積んだあさひっこの元氣な姿を観ることが出来ました。また小学生2000mリレーでは4チーム全てが朝日小学校の児童で、白熱した試合を展開していました。

スケート歴1年の朝日小3年生の男子児童に感想をお聞きすると「日々の練習を生かして速く滑ることが出来て楽しかった。これからもスケートを続けていきたい」と元氣に答えてくれました。

またスケート歴6年の朝日小5年生の女子児童に感想をお聞きすると「保育園の時からスケートを続けている。今日はとても楽しかった、また練習の成果が発揮出来て良かった。これからも練習を続け来年の大

会では今年よりもタイムを縮められるように頑張りたい」と笑顔で答えてくれました。本大会の前日から始まったミラノ・コルティナ冬季五輪においても日本人選手の活躍する姿が見られました。

本大会に出場した選手の中から、世界で活躍する選手が生まれることを期待します。



集合写真



位置について

窓口情報



※本人の了承を得て掲載しています。

おめでた

地区名	出生児	月日	父	母
西洗馬	山崎 翠	1・18	慎也	歩美

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
中古見	上條 一雄	72	本 人
南 下	酒井嘉代子	83	酒井勇一郎
中 通	鶴木袈裟吉	92	鶴木 米
下 組	上條 康秀	83	上條 文子
新田上	上條 清治	89	本 人
三ヶ組	磯崎 康二	71	本 人

バトンタッチ (館報編集委員)

退任者

3年間の長きにわたりご尽力いただきまして
ありがとうございました。お疲れさまでした。

曾根 優一 (下組)
清澤 建彦 (新田上)
上垣外和意 (下洗馬)

新任者

これからよろしくお願いします。

太谷 利実 (一之沢)
小林 寛臣 (新田下)
平林 昌 (三ヶ組)

※訂正

1月20日発行No485 P.8お台所エッセイにて
訂正がありましたのでお詫びします。

誤) 滝島優菜 → 正) 滝島優葉

移住3年目

「退職後は山の見える場所に住みたい」3年前、夫からの言葉です。

元々登山を趣味にはしていましたが、全く想像をしていなかった話でした。実家は千葉、結婚後は東京。両親や友人達と離れる事に動揺や心配もあり、勇気も要ります。この先もここで過ごしていくのだろう、と漠然としか考えていませんでしたが、夫はちゃんと「この先の生活」「やりたい事」を考えていたという事です。長年会社員として働いてきたのでこれからはやりたい事をさせてあげよう、と移住を決意。そしてご縁もあり

2年前、朝日村の住民となりました。

ここで自分の事と感じている事を少し。

【景色】「松本平で一番に陽が当たる場所」今住んでいる家からはどの季節も八ヶ岳から昇る朝日が見えます。

360度山が見える景色は最高です。当たり前の景色かもしれませんが朝の通勤時は八ヶ岳、高ボッチ高原、王ヶ頭の稜線。ビッグまで出れば奥穂高岳、常念岳、後立山連峰。帰りは鉢盛山、遠くに甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳も見え、松本の夜景はとても綺麗。見上げれば無数の星に今でも感動します。「山が見える場所に住みたい」と言い出した

夫よりも私の方が山に癒されている気がします。

【意外と便利】車で動く事が必須ですが、松本や塩尻に近く、特急にも乗りやすく高速のインターも近い。国道19号沿いには何でもあります。山間にある他の村や町に比べるとかなり便利。当面は不自由なく過ごせそうですが、車が使えなくなったら考えないと。

【趣味】登山の他にヴィオラを弾いています。天皇陛下が演奏されるあの楽器です。今は岡谷のオーケストラで演奏しています。もし近隣で一緒にアンサンブルを楽しんで下さる方がいらっしゃったら

是非一緒にしたいです。去年は仲間内で小さな発表会を開催しました。

【DIY】昨年から自分達で家を改修しています。先生は本とYouTube。年末迄に完成させるべく雪や雨の日でも頑張っています。DIYを通じて村の方々と少しづつ交流ができるようになりました。これからもよろしくお願いします。

お台所エッセイ

172



H・H

